

幼児期は、知識を教えられて身に付けていく時期ではなく、遊びながら学んでいく時期です。子どもは、夢中になって遊びこむ中で、保育者や友達、地域の人々、自然やさまざまなもの・出来事に出会います。それらとの関わりを広げたり深めたりしていくことで、新しい世界に気付き、自分自身について振り返るようになっていきます。

子どもは、興味・関心に基づいた自発的な活動や具体的な体験を通して多くのことを学びます。子どもの遊びには、成長や発達にとって重要な体験がたくさん含まれているのです。

ポイント①

遊びは幼児期にふさわしい学び

遊びと生活の中で、心も体も一緒に育つのが、幼児期の特徴です。鳥取県では、「遊びきる子ども」の育成をめざしています。保育者は、その遊びや遊びの中で育つ学びの質を高めるために、子どもの内面を理解し、子どもが経験していることや学んでいることを的確に捉えなければなりません。



鳥取県のめざす幼児の姿
「遊びきる子ども」

遊びたい(意欲)

(自ら)遊びだす

十分に遊びこむ

遊びきる

「遊びこむ」とは、遊びに集中する中で、その子らしい発想が生かされて遊びが深まったり広がったりしながら継続して展開されている状態のことをいいます。そこには、時間・空間・仲間の三つの間(ま)が必要です。我を忘れて「遊びこむ」ほどの楽しさを知ることが「遊びきる」ことにつながります。

「遊びきる」とは、一人一人が自己発揮をし、様々な葛藤体験を乗り越えながら友達と関わって十分に遊びこみ、満足感や達成感を味わうことができている状態であると捉えられます。



好奇心や探究心を育み、考えたり表現したりすることの楽しさや喜びを積み重ねることが大切です。

「遊びきる」ことで、心地よい満足感や達成感といった自己充実感を持ち、自分に自信をもつことにつながります。また、新たな遊びを生み出すエネルギーとなっていくのです。

友達とたっぷり遊ぶ時間と場を保障し、心ゆくまで「遊びきる」ことができるよう、自発的な遊びにつながる環境を構成することが必要となります。

ポイント②

幼児期に育みたい資質・能力を明確にする

平成30年度全面実施となった「幼稚園教育要領」等、「小学校学習指導要領」「中学校学習指導要領」等（平成29年）には、教育全体を通して3つの資質・能力を育むことが示されました。3つの資質・能力の出発点は幼児教育であり、**幼児期は遊びを通して学びの土台となる力を身に付ける時期**であると言えます。

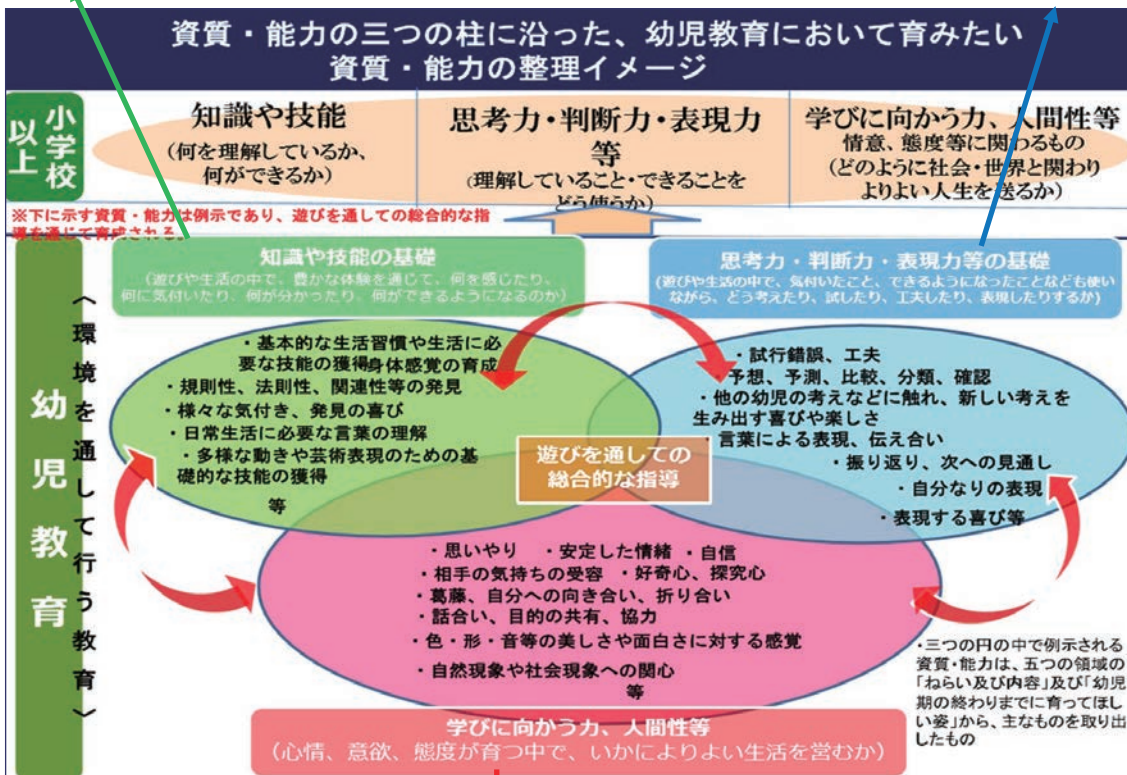
この3つの資質・能力は、これまでも、幼児教育において育んできたものではありませんが、日々の保育実践における子どもの具体的な姿を、改めて3つの資質・能力で捉えた上で、教育・保育内容の改善・充実を図ることが求められています。

「知識及び技能の基礎」

遊びの中で、「こうすればいいんだ」という気付きや「できた」という成功体験を積み重ねることにより、小学校以降の知識や技能の習得の基礎となる力が育まれる。

「思考力・判断力・表現力等の基礎」

遊びの中で生まれた自分たちがやりたいことに向けて、見直しをもったり、試行錯誤や工夫をしたり、言葉で考えを伝え合い振り返りをしたりする経験により育まれる。



「中央教育審議会初等中等教育分科会教育課程部会幼児教育部会」資料

「学びに向かう力・人間性等」

幼児教育で、もっとも大事にしてきたところであり、遊びの中で、好奇心や探究心をもって取り組む、葛藤しながら折り合いをつける、話し合いをするなどの経験により育まれる。

3つの資質・能力は、幼児教育における5領域（健康・人間関係・環境・言葉・表現）を通して、各園が子どもの発達の実情や子どもの興味や関心等を踏まえながら展開する活動全体によって育むものです。幼児期においては、自発的な活動としての遊びの中での豊かな体験を通して、資質・能力を育むことが大切です。習得・活用・探究等の子どもの学んでいく過程を見通した環境の構成や一人一人の違いに着目した援助を行うことが大切です。



園がめざす子ども像と育みたい資質・能力とのつながりを全職員で共通理解し、組織的・計画的に全体的な計画や教育課程等を作成・編成していきましょう。

ポイント③

幼児期に育みたい資質・能力を子どもの姿で捉える

遊びの中の子どもの姿を、育みたい3つの資質・能力で捉えるには、担任だけではなく、多くの教職員で、多面的に子どもの育ちや学びの姿について評価することが大切です。

遊びの中の子どもの姿を、育みたい3つの資質・能力で捉える方法について紹介します。

写真の活用

「知識及び技能の基礎」

- ・団子の硬さの調整（握り方・力加減）
- ・白砂をかける高さ、砂の量の調節
- ・砂の性質、色等の違いに気付く
- ・団子の完成度を高めるための工夫

「思考力・判断力・表現力等の基礎」

- ・団子の分類（大きさ、種類）
- ・友達の団子との大きさの比較、大きさを合わせる
- ・お店にするための見通し、アイデアを出し合う
- ・自分の作った団子のイメージを伝える
- ・崩さないように団子を固く握る集中力

4歳児10月
砂場遊びの場面

砂場の砂を使って団子づくりをして遊んでいた子どもたち。団子がたくさんできあがるのが楽しくなり、「お団子屋さんしよう。」と遊びが発展している写真です。

みんなでよもぎ団子を作って食べた経験を思い出し、よもぎ団子やきなこもちに見立て遊んでいます。



「学びに向かう力・人間性等」

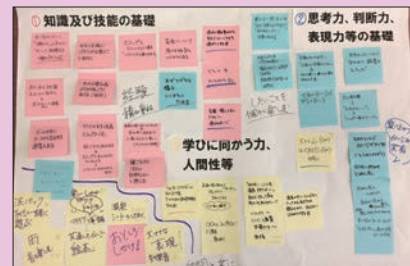
- ・友達と遊びを共有し、やり遂げる楽しさ、達成感、自信
- ・友達のやりたいこと、思いを受容する
- ・役割分担をして協力しながら遊びを続けようとする
- ・友達を真似て同じように作りたいという思い
- ・目的、イメージの共有

鳥取幼稚園管理職研修における協議内容
(H30. 7. 30)

公開保育の活用

【公開保育・研究協議の流れ】

- ① 保育を参観しながら、ねらいにせまる子どもの姿や発言をメモしておく。
- ② ①の子どもの姿は、3つの資質・能力のいずれの姿なのか、3色の付箋に分類して記入する。
- ③ 各自、意見を発表し、3つの資質・能力に分類しながら模造紙等に貼り、育まれている姿・力などを確認する。
- ④ さらに子どもの力を伸ばすための保育者の関わりや環境について考える。



クラス全体や子ども一人一人が、何を、どのように学んでいるのかを把握し、環境の構成や援助を考えることが大切です。そのために、まずは、子どもの姿を捉え、保育者が意図的・計画的に環境を構成することが必要となります。

ポイント④

主体的・対話的で深い学びの実現を図る

子どもにとって、意味のある学び、確かな学びになるかどうかは、子ども一人一人の遊びへの関わり方にかかっています。受け身で単に活動をこなしているだけ、体験しているだけでは十分な遊びとは言えません。小学校以降の学校教育全体を見通し、幼児期の遊びの中の学びの過程を主体的・対話的で深い学びが実現できているかどうかという視点で見直し、質の高い体験や遊びをめざす必要があります。

水たまりにジャンプ。
気持ちいいな。
【挑戦・探究心】



一人で運べるよ。
待っててね。
【自信・自己発揮】



ハロウィンのドレス、こんなのができたよ。見て見て。
【表現・満足感】



幼児教育・
幼保小の接続編

「主体的な学び」

周囲の環境に興味や関心をもって積極的に働きかけ、見通しをもって粘り強く取り組み、自らの遊びを振り返って、期待をもちながら、次につなげる。

うわあ。いっぱいひらひら降ってくるよ。
【驚き・楽しさ】



「対話的な学び」

他者との関わりを深める中で、自分の思いや考えを表現し、伝え合ったり、考えを出し合ったり、協力したりして自らの考えを広げ深める。

年少さんには、こわくないおぼけにしよう。
【工夫・相手意識】



「深い学び」

直接的・具体的な体験の中で、「見方・考え方」を働かせて対象と関わって心を動かし、子どもなりのやり方やペースで試行錯誤を繰り返して、遊びや生活を意味あるものとして捉える。

おしゃれな洋服をつくったよ。森のパーティーに早く行きたいな。
【意欲・期待】



がんばらえ！！力いっぱい応援するよ！！
【表現・競争・協同性】



お店の看板、さかなつり屋さんって分かるために、何をかこうか。
【相談・協同性・試行錯誤】



モミジのかんむり、かっこいいでしょ。何枚貼ったかな。
【数量関係・表現】



次、誰がそうべい役をする？そうべいをやりたい人は？
【相談・折り合い・葛藤】



主体的・対話的で深い学びを実現するために保育者が念頭に置くこと

- 一人一人の子どもが体験していることを理解しようと努める。
- 子どもの体験を保育者が共有するように努め、共感する。
- どのような興味や関心が子どもの心に生じてきたのかを理解する。
- 遊びや体験から子どもが何を学んだのかを理解し、学びをさらに深めたり、発展させたりすることができるような環境を構成する。
- ある時期の体験が後の時期のどのような体験とつながり得るのか、見通しをもつ。



まずは、保育者自身が心が動き、わくわくする遊びを子どもたちとつくり上げていきたいですね。

保育者が目の前の子どもの学びの姿を理解し、指導計画等に意図的に生かしていくことで、子どもの体験がつながりを持ち、学びがより豊かになっていきます。

子どもにとって心が動き、自発的な遊びを積み重ねることが、確かな学び・質の高い学びへとつながります。

小学校に入学する子どもたちの学びは、ゼロからスタートするものではありません。入学前の園で身に付けた資質・能力を生かしながら教科等の学びにつなぎ、子どもの資質・能力を伸ばしていくことが重要です。

遊びを中心とした幼児期の教育と、教科等を中心とする小学校教育では、教育内容や指導方法は異なっていますが、子どもの発達や学びはつながっています。幼児期の教育の特性である遊びを通しての総合的な指導が、義務教育及びその後の教育の基盤を培っています。

そのため、幼保小連携・接続のさらなる充実に向けて、計画的・組織的に各市町村・各小学校区等で教職員の相互理解のための取組を実施し、教育をつなぐことが求められています。

ポイント①

幼児期に身に付けた力を
小学校以降の学びにつなぐ

園と小学校の教職員が、計画的に互いの保育や学習の場面を参観・体験し、教育内容や子どもの姿について協議する研修等を実施したり、互いの子どもの育ちや学びをつなげるための取組を推進・充実させたりすることが大切です。

園と小学校の教育課程等をつないだ上で、それぞれの指導方法を工夫し、幼児教育と小学校教育との円滑な接続を図ることが大切です。

《園における学びの姿》



『遊びきる子ども』をめざした幼児期ならではの心動く直接的な体験は、子どもたちの「気付く」「考える」「集中する」「没頭する」「試行錯誤する」「協力する」「葛藤する」などの生きる力の基礎を培うものと考えます。

幼児期において「遊び」で培われる力が、小学校における『主体的な学び』の基礎となります。また、友達や保育者との安心感や信頼感といった温かい関係の中で育まれた協同性やコミュニケーション力等は、『対話的な学び』につながるものです。



《小学校における学びの姿》

「鳥取県幼保小接続ハンドブック」P.1.2

幼児の自発的な活動である遊びの中の学びの姿と、小学校における主体的な学びの姿を相互に理解し合うことが、子どもの発達や学びの連続性を保障し、幼保小の円滑な接続につながります。

幼保小の連携から接続へ

連携とは

- * 組織（園、小学校、市町村等）がつながることを通して、人（園児・児童・教職員・市町村担当者等）がつながること
《具体的な取組例》
 - ・園児と児童の交流活動
 - ・教職員の研修会 等

接続とは

- * 教育課程・教育がつながること
《具体的な取組例》
 - ・接続カリキュラムの編成・実施
 - ・連携したことをもとに自園・自校の教育の改善・充実
 - ・接続カリキュラムと教育課程とのつながりの確保 等

キーワードは、3つの「つなぐ」

子どもの育ちと学びをつなぐために

組織をつなぐ

- ・管理職同士のつながり（連絡協議会等）
- ・連携推進担当者同士のつながり
- ・年間連携（交流）計画を作成
- ・就学前後の引継ぎ・連絡会の実施
- ・園、学校、学級だより等の送付、掲示等
- ・幼保小の相互理解に向けた参観・研修等の実施

人をつなぐ

- ・園児と児童、園児同士の交流ねらいを明確にした交流
- ・教職員の相互理解
- ・保育参観・授業参観
- ・合同研修会
- ・保育体験・授業体験

教育をつなぐ

- ・めざす子どもの姿の共通理解
- ・互いの教育内容・保育内容を理解
- ・つきたい力等を協議し、共通実践
- ・カリキュラムの編成・実践・評価・改善

教職員の交流・研修等の人的な連携及び園児と児童の交流活動を充実させながら、教育のつながりを確保する教育課程の編成・実施へと発展することをめざしています。

円滑な連携・接続のための取組のポイント

園

幼児期の教育における成果を小学校へ確実につなぐこと

小学校

園での体験や学びを、小学校での学びに生かすこと

園

小学校

互いの教育内容を改善・充実させる取組へと進展していくこと

各市町村及び各小学校区等における「めざす子どもの姿」を共有することが、幼児期と小学校以降の教育がつながる手掛かりとなります。



連携・接続の詳しい内容・実践は、「鳥取県幼保小接続ハンドブック」に掲載しています。



ポイント②

「幼児期の終わりまでに育ってほしい姿」を共有する

「幼稚園教育要領」「保育所保育指針」等及び「小学校学習指導要領」（平成29年）には、園と小学校の教職員が、「幼児期の終わりまでに育ってほしい姿」を手掛かりに、子どもの姿を共有するなど、幼児期の教育と小学校教育の円滑な接続を図ることの重要性が示されています。

「幼児期の終わりまでに育ってほしい姿」(10の姿)

- 幼児期にふさわしい遊びや生活を積み重ねることにより、幼児期において育みたい資質・能力が育まれている幼児の具体的な姿であり、特に5歳児後半に見られるようになる姿。
- 遊びの中で幼児が発達していく姿を、「幼児期の終わりまでに育ってほしい姿」を念頭に置いて捉え、一人一人の発達に必要な体験が得られるような状況をつくりたり必要な援助を行ったりするなど、指導を行う際に考慮することが求められる。

「保育所保育指針」

第2章 4

(2) 小学校との連携

イ 保育所保育において育まれた資質・能力を踏まえ、小学校教育が円滑に行われるよう、小学校教師との意見交換や合同の研究の機会などを設け、「幼児期の終わりまでに育ってほしい姿」を共有するなど連携を図り、保育所保育と小学校教育との円滑な接続を図るよう努めること。

上記と同様の記載

※「幼稚園教育要領」

第1章 総則 第3

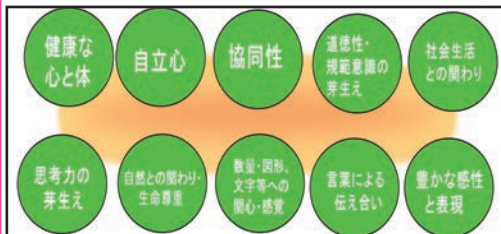
教育課程の役割と編成等

※「幼保連携型認定こども園教育・保育要領」

第1章 総則 第2

教育及び保育の内容並びに子育ての支援等に関する全体的な計画等

園と小学校等の教職員が共有する10の姿



具体的な10の姿については、資料編P.102を参照

- 到達目標ではなく、各項目を個別に取り出して指導するものでもありません。
- 5歳児だけではなく、それぞれの年齢・時期にふさわしい指導を積み重ねていくことよって育つ姿です。
- すべての子どもにも同じように見られる姿ではありません。
- 小学校等の教職員にとっては、児童が主体的に自己を発揮しながら学びに向かうようにするための教育活動の手掛かりとなるものです。

「小学校学習指導要領」

第1章 総則

第2 4 学校段階等間の接続

教育課程の編成に当たっては、次の事項に配慮しながら、学校段階等間の接続を図るものとする。

(1) 幼児期の終わりまでに育ってほしい姿を踏まえた指導を工夫することにより、幼稚園教育要領等に基づく幼児期の教育を通して育まれた資質・能力を踏まえて教育活動を実施し、児童が主体的に自己を発揮しながら学びに向かうことが可能となるようにすること。(中略)

特に、小学校入学当初においては、幼児期において自発的な活動としての遊びを通して育まれてきたことが、各教科等における学習に円滑に接続されるよう、生活科を中心に、合科的・関連的な指導や弾力的な時間割の設定など、指導の工夫や指導計画の作成を行うこと。

※生活、国語、算数、音楽、図画工作、体育、特別活動においても、上記下線部と同様の記載



小学校においては、幼児期に身に付けた力を教科等の学びに生かすことが求められています。

生活科における教育のイメージ

小学校 中学校	社会	総合的な学習の時間	理科
教科等の特徴に応じた「見方・考え方」や資質・能力を育むとともに、教科横断的にそれらを総合・統合していく学び	社会的事象の見方・考え方の位置や空間的な並び、時間や時間の経過、事象や人々の相互関係などに着目して社会的事象を捉え、比較・分類、場合分けなど、国民の生活と関連付けると	探究的な見方・考え方(案)各教科等における見方・考え方を総合的に活用して、広範な事象を多様な角度から俯瞰して捉え、実社会や実生活の文脈や自己の生き方と関連付けると	理科の見方・考え方身近な自然の事象・現象を、質的・量的な関係や時間的・空間的な関係などの科学的な視点で捉え、比較・分類、関係付けに対する必要、問題解決の方法を用いて考えること
生活科を中心としたスタートカリキュラムの中で、合科的・関連的な指導も含め、子供の生活の流れの中で、幼児期の終わりまでに育った姿が発揮できるような工夫を行いながら、短期間学習などを含めた工夫を行うことにより、幼児期に総合的に育まれた「見方・考え方」や資質・能力を、徐々に各教科等の特徴に応じた学びにつなげていく時期	身近な人々、社会及び自然と自分との関わりで捉え、比較、分類、関連付け、試行、予備、工夫することなどを通して、自分自身や自分の生活について考えること	身近な生活に関わる見方・考え方(案)＜身近な生活に関わる見方・考え方を＞	図 音 体 特別 楽 画 育 活 工 作 働 動
幼児期の終わりまでに育ってほしい姿を手掛かりとしながら、幼児の得意なところや更に伸ばしたいところを見極め、それらに応じた関わりをしたり、より自立的・協同的な活動を促したりするなど、個別的・社会的な環境の構成に基づいた総合的な指導の中で、バランスよく「見方・考え方」や資質・能力を育む時期	具体的な活動や体験を通して、身近な生活に関わる見方・考え方を生かし、自立し生活を豊かにしていくための資質・能力を、次のように育成することを目指す	生活科	
遊びや生活の中で、幼児期の特徴に応じた「見方・考え方」や資質・能力を育む学び	○活動や体験の過程において、自分自身、身近な人々、社会及び自然の特徴やよさ、それらの関わりに関わるとともに、生活上必要な習慣や技能を身に付けるようにする	○身近な人々、社会及び自然と自分との関わりで捉え、自分自身や自分の生活について考え表現する力を育成する	
	○身近な人々、社会及び自然に自ら働きかけ、意欲や自信を持って学んだり生活を豊かにしたりしようとする態度を育てる	○身近な人々、社会及び自然に自ら働きかけ、意欲や自信を持って学んだり生活を豊かにしたりしようとする態度を育てる	
	「スタートカリキュラム」を通じて、各教科等の特徴に応じた学びにつなぐ		
	健康な心と体 自立心 道徳性・規範意識の芽生え 社会生活との関わり 思考力の芽生え 自然との関わり・生命尊重 数・図形・文字等への関心・感覚 言葉による伝え合い 豊かな感性と表現		
	幼児期の終わりまでに育ってほしい姿		

※各教科等の「見方・考え方」を踏まえて、関係性を示したものである。また、「幼児期の終わりまでに育ってほしい姿」の項目の選定は、小学校教育との関連が分かるように示したものであり、基本的にはすべての教科に関わっているが、濃い部分は特に意識的につながりを考えていることが求められるもの。幼児教育において小学校教育を前倒して行うことを意図したものではない。

＜就読園段階： 家庭や地域での生活＞

交流活動で「幼児期の終わりまでに育ってほしい姿」を共通理解する

園児と児童の交流活動の際に、双方の教職員が「幼児期の終わりまでに育ってほしい姿」を意識しながら計画・実践・研修をする方法があります。

鳥取市立湖山西小学校と認定こども園ひかりこども園の実践を紹介します。

	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月
ひかりこども園	入園式 参観日	芋苗植え 親子遠足	プール開き 参観日 個人懇談	お泊り保育 (年長) 1年生の集い		運動会 湖山西・湖山 地区敬老会参 加(年長)	クリスマス 発表会	もちつき大会 収穫感謝訪問	クリスマス 発表会	個別懇談	参観日	卒園式
☆交流内容	☆小学校へおにぎり遠足に出かけよう! ～いろいろな学年との交流～ ・校内見学 ・触れ合い遊び など		☆ようこそひかりこども園へ ～6年生との交流①～ ・ゲームや体操 など		☆フェスティバルに参加しよう ～6年生との交流②～ ・いろいろな遊びコーナーの体験 ・小学校生活についてのクイズ		☆早く1年生になりたいな ～1年生との交流～ ・1年生の学習、生活に ついて知る					
○接続の主な視点 (10の姿)	○健康な心と体 ○社会生活との関わり		○健康な心と体 ○言葉による伝え合い		○協同性 ○道徳性・規範意識の芽生え		○自立心 ○数量や図形、標識や文字 などへの関心・感覚					
こども園・小学校の交流	☆小学校へ出かけよう!(年間を通して不定期で実施) 図書館利用 学校探検 中間休憩での子どもたちの触れ合い											
湖山西小学校	始業式 入学式 参観日 全校遠足	湖山西地 区運動会	体カテスト プール開き 参観日 1年級発表会 4年級学習	5年級学習 個人懇談 夏季休業	夏季休業	6年級学習 発表会 夏休み発表会	前経結業式 後経結業式 祝辞発表会 参観日	持久走大会 学習発表会	自由参観日 冬季休業	個人懇談	就学時体 験入学	6年生を送る 会 卒業式 終了式
主な交流学年 教科等	ようこそ湖山西小学校へ(全校児童) 中間休憩を活用した触れ合い			絆プロジェクト(6年生) ひかりこども園年長児との交流 総合的な学習の時間			もうすぐ2年生(1年生) できるようになったこと発表会をしよう 生活科					

年間交流計画表の中に、双方の教職員が交流時に大切にしたい「幼児期の終わりまでに育ってほしい姿」を記載し、交流活動の打合せ・計画案作成・交流時の子どもの姿を共有する際の視点とします。

交流活動計画案

<p>【交流のねらい】 6年生 (総合的な学習の時間) 絆プロジェクト ひかりこども園年長児との交流～ここにフェスティバル2018～ ○相手の気持ちを考えながら交流し、園児を楽しませたり、自分自身の成長につながりたりできる。 (具体的な姿: ペアの園児の気持ちを聞きながら活動したり、園児の順番や決まりを守っているときに褒めたり、アドバイスをしたりしている。) ○自分の役割に最後まで責任を持って取り組み、丁寧に仕上げる習慣をつける。 (具体的な姿: 今までの交流で得た情報をもとに、園児が安全に楽しめる活動を考え、丁寧に準備や作業をしている。片づけを最後までみこんでいる。)</p>	<p>年長児 フェスティバルに参加しよう ～6年生との交流②～ ○6年生と年長児同士などいろいろな友達と積極的に関わり、楽しんでフェスティバルに参加する。 (具体的な姿: ペアの6年生と年長児同士などいろいろな友達と声をかけ合いながら、楽しんで過ごしている。) ○6年生と一緒にコーナー遊びを通して、ルールを守る大切さ気づく。 (具体的な姿: ルールを守って、各コーナーの遊びを楽しんでいる。) ○小学校生活について知り、就学への期待を高める。 (具体的な姿: 劇に興味をもちじっくり見たり、〇×クイズに楽しく参加したりしている。)</p>	
<p>園児の主な活動 ペアの6年生と一緒に並びあいさつを聞く。 先おはれレジャショーを見る。(劇を見ながら小学校生活のきまりについて知る。) 学校〇×クイズにチャレンジする。 いろいろな遊びを一緒にしたり、役割の仕事をしたりする。 みんなでダンスをする。 感想を発表する。 おわりのあいさつをする。</p>	<p>年長児に対する教職員の配慮・支援等 ○園児が安心して参加できるようにペアの6年生が近くにいる形で行う。 ○支援の必要な園児の様子を近くで見守り、必要に応じて声をかける。 ○園児と一緒にクイズに参加し楽しさを共有する。 ○各コーナーの様子を見て回り、戸惑っている園児に寄り添いながら一緒に活動し安心感をもたせる。 ○役割の仕事がはかっている園児がよやくよくよ進んでいる園児に声をかけさせる。 ○園児に楽しみのあるダンスや、楽しい雰囲気をつくる。 ○楽しんで参加した園児に止めながら、今後のつながりがあるようにする。</p>	<p>6年生の主な学習活動 1.はじめのあいさつをする。 2.先おはれレジャショーをする。(小学校生活について関心を持ちやすく劇にして伝える。) 3.学校〇×クイズを出題する(楽しく小学校生活のきまりについて知ってもらう。) 4.いろいろなコーナー遊びをアの園児とする。 ～お祭りタイム～ ・ボウリング・ブロック積み ・おにぎり作り ・おにぎり作り</p>

ひかりこども園・湖山西小学校交流

<本交流で大切にしたい10の姿>

○協同性
友達と関わる中で、互いの思いや考えなどを共有し、共通の目的の実現に向けて、考えたり、工夫したり、協力したりし、実感をもちやり遂げるようになる。

○道徳性・規範意識の芽生え
友達と様々な体験を重ねる中で、よいことや悪いことが分かり、自分の行動を振り返ったり、友達の気持ちに共感したり、相手の立場に立って行動するようになる。また、まわりの人々の困りごとや、自分や友達の困りごとを助けたり、助けられる喜びやうれしさを、まきりをつくらうようになる。

期待される園児の姿

- 事前に予想していた園児の姿
- 協同性
 - 自分の気持ちを6年生に伝えている。
 - 周りの友達と協力して、コーナー遊びの当番をしている。
 - 6年生のアドバイスを聞いて、楽しく遊んでいる。
 - みんなと楽しく元気にダンスを踊っている。
- 道徳性・規範意識の芽生え
 - ルールを守って遊びを楽しんでいる。
 - 6年生の説明をしっかり聞いて聞いている。
 - 劇や〇×クイズに興味をもっている。
 - 友達を応援する姿。

交流のまとめ

- 今までできなかったこと、やらなかったことも自分でやってみようとするなど交流活動後の園児の様子に変化が見られるようになった。
- おにぎり遠足での交流もあり安心して6年生と園児が触れ合うことができた。(継続した交流がお互いに良い結果となった。)
- 自分の気持ちを伝える相手(6年生)の存在により普段の生活とは違った表現ができる機会となった。

交流活動後の協議

事後のふりかえりのまとめ

○協同性

- 6年生とずっと一緒に遊んでいた。
- 自分から話しかけやりとりを楽しんだ。
- 6年生のアドバイスを聞いて楽しく遊んだ。
- 6年生の様子を真似て呼び込みができた。
- ◎自分の役割(ハンコ押し、説明する、ボールを渡すなど)を6年生と協力して取り組んでいた。

○道徳性・規範意識の芽生え

- ◎友達のことにも気にながら楽しさを共有。
- ◎ルールを守って楽しく遊んでいた。
- ◎ペアの6年生と離れず行動できていた。
- ◎6年生の注意を素直に聞けていた。
- ◎あいさつが元気よくできるようになった。
- ◎小学校生活のきまりを守り守らうとしている。

○自立心

- ◎スタンプを押すなど自分の役割ができていた。
- ◎遊びのルールを理解し、クリアできた楽しさを味わっていた。
- ◎ゴール直などの役割ができた喜びを味わう姿。
- ◎自分からうらうらと声を出していた。
- 6年生の説明をきちんと聞いていた。
- 大きな声で呼びかけができていた。
- ◎ルールややり方が分からずと積極的に聞いていた。

○言葉による伝え合い

- ◎分からないことを聞いていた。
- ◎6年生の話を聞いて遊びコーナーのルールを理解していた。
- ◎インタビューに答えて感想を発表する姿。
- 「がんばれ」と自然に応援する。
- ◎自分の気持ちをペアの6年生に伝えている。

◎ひかりこども園 ●湖山西小学校 ◎共通



園児と児童の交流活動の際、交流のねらい及びどんな子どもの姿をめざすのかを双方の教職員が明確にし、子どもの姿を語り合うことで、互恵性のある交流活動や職員の協議を実施することができます。

幼児教育・幼保小の接続編

ポイント③

遊びの中の学びを共有し、教育をつなぐ

園と小学校の教職員が、園における学びをどのように小学校につなぎ、園での実践をどのように小学校で発展させていくのかについて協議を行い、互いの教育内容や指導計画等に生かしていくことが大切です。

鳥取大学附属幼稚園と鳥取大学附属小学校における連携・接続の取組を紹介します。

園が作成した記録の活用

園と小学校の教職員が、子どもの学びを共有するために、園で作成した記録（ドキュメンテーション）を活用しています。ドキュメンテーションには、特に見られる子どもの育ち（「幼児期の終わりまでに育ってほしい姿」を基にして）から、特に保育者が重視した姿（2～3の観点）を記述しています。また、遊びの内容だけではなく、子どもたちなりの工夫や保育者がどんなねらいをもって取り組んだかも分かるように記載し、小学校に学びを引き継ぐ材料としています。

園が作成した記録（ドキュメンテーション）

事例から特に見られる子どもの育ち
（「幼児期の終わりまでに育ってほしい姿」を基にして）

⑩ お店を開こうよ どんぐりまつり （5歳児 10月）

子どものつぶやき

- 7 自然との関わり・生命尊重
- 3 協同性
- 6 思考力の芽生え

何を作ろうかな

子どもの思い

おかしや

ケーキを1つえらんで。どんぐりのお金をちょうだい。

これ、かわいいい。

あくせさりいや

保育者が特に大切にしたい援助や環境の構成

遊びの経験を生かしてみんなで協力して作れるように

どんぐりをお金代わりに渡して、優しくやり方を説明しています。

全員が来ても、みんなが買える数を考え、必死になって50個以上作りました。

お店の相談では、本で探したり、「幼稚園バザー」で楽しかったコーナーなど自分の経験から遊びを提案する姿が見られました。自分なりの工夫が実現できるよにかかわりながら、グループの友だちとイメージを共有して準備できるように橋渡しをしたり、協力している姿を認めて言葉をかけたりしました。

みんなで集めたどんぐりやマツボックリ、落ち葉を使って遊んだ経験から、みんなで協力してお店を開くことになりました。グループごとに、どうしたらお客さんが楽しんで満足してもらえるお店になるのかを考え、工夫しました。店員の仕事も担当します！ところが、仕事を分担する場面になると、言い合いになってしまふことも。最後はじゃんけんで公平に決めようとしていました。

保育者の読み取り・子どもの学び、経緯

どんぐりすくい

いいこと考えた。

どんぐりは、みんな洗ってしまうので、取りやすいように浮く素材も混ぜています。

箱、壁、ピタゴラスイッチ風といういろいろなタイプのものができています。

どんぐりまつり

小学校においては、特に生活科を中心とした単元構想、学習の展開を考える際に、園と小学校の教職員の協議を生かし、すでに園で経験している遊びの繰り返しではなく、より工夫した活動、発展した学びとなるように計画していきます。

ドキュメンテーションを活用し、子どもの姿を基に「幼児期の終わりまでに育ってほしい姿」について教職員が協議の場をもつことにより、それぞれの教育についての相互理解につながっていきます。



ポイント④

小学校区における「育てたい子どもの姿」を共有し、教育をつなぐ

園と小学校等の互いの子どもの育ちや学びをつなぐための接続カリキュラムを編成するために、まずは、小学校区の子どもの実態把握をし、「育てたい子どもの姿」や育てたい力等、方向性を明らかにし、校区一体となった共通実践等を行うことが大切です。

鳥取市立醇風小学校区（醇風小学校、認定こども園鳥取第二幼稚園、鳥取市立みたから保育園、むつみ保育園）における教育をつなぐ実践を紹介します。

組織をつなぐ

相互理解を支える醇風小学校区の組織

幼保小連携協議会（隔月開催） 情報交換や実践についての総括

<メンバー>
校長、各園長



幼保小連携推進委員会

接続カリキュラム編成・接続期の実践の共有

・幼保小の職員が、学びのつながりを意識しながら、接続カリキュラムを一緒に編成

<メンバー>
小学校1年担任
各園代表1名
鳥取市教育委員会



幼保小連絡会（年3回）

児童・園児に関する情報交換

- ・1、2年生と4、5歳児の様子
- ・交流活動等について
- ・就学に向けての引き継ぎ

<メンバー> 1、2年生担任、教頭
4、5歳児担任、副園長

人をつなぐ

相互理解を推進する活動

- 合同授業・保育研究会
授業、保育参観後、研究会に相互に参加。
- 保育体験
小学校全教員が夏季休業中に参加。
- 共通実践
挨拶、靴揃え等、発達段階に応じた取組。
- 交流活動
お互いにお互いをもった交流の推進。



教育をつなぐ

※詳しくはP. 21, 22を参照してください。

相互理解を深めるカリキュラム

接続カリキュラム
「育てたい子どもの姿」
「育てたい力」

接続カリキュラム
年長児10月から小学校1年生7月までの定着させたい力や具体的活動を示したもの。

より具体的に

スタートカリキュラム
幼児期の学びを生かし、安心して学校生活をスタートするためのカリキュラム。
桃色：幼児期の体験を生かした学習
黄色：学校の生活やきまりに関する学習
緑色：生活科中心とした総合的・関趣的な学習
水色：教科等を中心とした学習

学年	10月	11月	12月	1月	2月	3月	4月	5月	6月	7月
1年	生活科	生活科	生活科	生活科	生活科	生活科	生活科	生活科	生活科	生活科
2年	生活科	生活科	生活科	生活科	生活科	生活科	生活科	生活科	生活科	生活科
3年	生活科	生活科	生活科	生活科	生活科	生活科	生活科	生活科	生活科	生活科
4年	生活科	生活科	生活科	生活科	生活科	生活科	生活科	生活科	生活科	生活科
5年	生活科	生活科	生活科	生活科	生活科	生活科	生活科	生活科	生活科	生活科
6年	生活科	生活科	生活科	生活科	生活科	生活科	生活科	生活科	生活科	生活科

実践の成果

- 小学校区で育てたい子どもの姿や定着させたい力を共通理解し、創意工夫ある実践が展開できた。園では就学時の子どもの姿が明確になり、接続期における活動がさらに工夫できるようになった。
- 小学校ではカリキュラムの共有や保育体験等を通して園の教育について理解が進み、幼児期に培った力を生かすにはどのような教育課程や学習展開が有効か考えることができた。
- 連携の組織が活発に活動し、全教職員が各々の立場で相互理解の実践に関わることができた。

ポイント⑤

接続カリキュラムの編成を通して、教育をつなぐ

接続カリキュラムの編成において、まずは、校区の育てたい子どもの姿を協議することが大切です。園と小学校の教職員が「就学前後に育てたい子どもの姿」を共有し、学びのつながりを意識した接続カリキュラムを編成し、実践することが、園及び小学校等、それぞれの教育内容の充実につながります。

鳥取市立醇風小学校区の教職員が編成したカリキュラムと実践例を紹介します。

「育てたい子どもの姿」を共有し、編成した接続カリキュラム

小学校と3つの園が、校区の子どもたちの実態を踏まえ、共通の方向性を示すものとして、就学前後に校区で育てたい子どもの姿を示しています。

<年長児後半>

<1年生夏休みまで>

接続カリキュラム		(保育方針) 仲間とともに生き生きと活動し、心豊かでたくましい子どもを育成する ～豊かな心とことば育て～			(むつみ保育園)		
実態	<ul style="list-style-type: none"> ・明るくひとなつこく様々な事に興味がある。 ・積極的に体を動かしたり遊び、少し難しいことにも挑戦して粘り強くやり遂げようとする力が育ってきている。 ・遊びの中で工夫したり試したりすることができている。 ・自分の思いや考えを言葉で表現し自己主張をすることはできるが、相手の思いに寄り添いながら話し合いしたりするなど、やりとりが上手い出来ないことがある。 ・自分の思いや考えを人前で伝えることが苦手である。 ・役割になり馴染みが不十分だったり、顔ごはんを覚えていなかったりして、生活リズムが整っていない子どもがいる。 				<ul style="list-style-type: none"> ・いろいろなことに興味を持ち、挑戦しようとする。 ・自分の思いを上手に伝えたり、相手の気持ちを受け止めたりできないときがある。 ・自分で考えて活動したり、粘り強く最後まで取り組んだりすることに消極的である。 		
育てたい子どもの姿	<ol style="list-style-type: none"> 1 集団の中での約束やきまりがわかり、見通しを持って、行動したり生活したりすることができる。 2 友だちと積極的に運動遊びに取り組み、競い合ったり、みんなで簡単なルールを作ったりして遊ぶことを楽しむことができる。 3 自分の感じたことを友だちにわかるように伝え、友だちの思いを受け入れる。 4 共通の目的を持ち、友だちと役割分担をして、互いに考えや意見を話し合い協力して遊びや生活を進める。 5 考えたり工夫したりして遊び、困難に感じるがあっても諦めずに取り組む。 				<ol style="list-style-type: none"> 1 新しい集団の中でのきまりを理解し、見通しを持って活動する。 2 友だちと進んで関わろうとし、教師や友達との生活を楽しむ。 3 自分の気持ちを伝えたり友達の思いを受け止めたりしながら、人間関係を広げる。 4 互いに考えや意見を話し合い、協力して活動する。 5 興味・関心を大切に、困難なことがあっても諦めずに最後まで取り組む。 		
定着させたい力	10月 11月 12月	1月 2月 3月	4月 5月 6月 7月				
	【健康な体づくり】 食育・運動・安全・生活習慣	<ol style="list-style-type: none"> ① 進んで身の回りのことを行い、自分でできることに自信を持つ。 ② 積極的に運動遊びに取り組み、競い合ったルールを作って遊ぶ中で、体力をつける。 ③ ルールの必要性や危険なことに基づき、安全に行動しようとする。 	<ol style="list-style-type: none"> ① 生活の流れを予測して、準備や片づけをする。 ② 自分なりの目標を持ち、挑戦したり、繰り返し取り組んだりする。 ③ よいことや悪いことがわかり、きまりを守ろうとする。 	<ol style="list-style-type: none"> ① 安全に過ごすための生活のきまりを理解して、気をつけて生活しようとする。 ② 時針を参照して見通しを持って生活する。 ③ 自分の目標を持ち、いろいろな運動に挑戦したり、繰り返し取り組んだりする。 <p>【時間割、モーニングRUN、給食、集団下校】</p>			
	【豊かな人間性づくり】 自己発露・協同性・きまり	<ol style="list-style-type: none"> ① 友だちと積極的にかわかり、相手の気持ちを考える。 ② 自分の経験したことや困っていることを相手にわかるように話す。 ③ 友だちと共通の目的を持ち、ルールを守りながら遊びを楽しむ。 	<ol style="list-style-type: none"> ① 自分の感じたことや考えたことを伝え、友だちの思いを受け入れて折り合いをつけて遊ぶ。 ② 異なる年齢の友だちの様子に気づき、声をかけたり優しくしたりする。 ③ 友だちと役割分担をし、互いに考えを出し合いながら、遊びや生活を進める。 	<ol style="list-style-type: none"> ① 自分の気持ちを伝え、いろいろな友だちと進んで関わろうとする。 ② 友だちの考えを知り、折り合いをつけて生活する。 ③ 学校生活のきまりを守り、みんなで使う物や場所を大切にします。 <p>【清掃活動、当番活動、観劇活動、休憩】</p>			
	【学びの基礎づくり】 意欲・探究心・表現	<ol style="list-style-type: none"> ① 五感を使った遊びを通して、感じたり考えたり工夫して遊びを発展させようとする。 ② 日常生活の中で、数や文字に関心を持ち、生活に取り入れる。 ③ 生活や遊びを通して、感じたことや考えたことなどを自由に描いたり、作ったり、演じたりして遊ぶ。 	<ol style="list-style-type: none"> ① 最後まで関心を持って聞き、理解して落ち着いて行動する。 ② いろいろな材料を使い、考えたり試したり工夫して遊ぶ。 ③ 小学校へ期待を持ち、意欲的に生活する。 	<ol style="list-style-type: none"> ① 学習に必要なきまりを知り、守る。(学習規律) ② 「わかった」「できた」という喜びを感じ、進んで生活や学習しようとする。 ③ 生活や学習のなかで、いろいろな方法を考えたり工夫したりすることを楽しむ。 <p>【探検、観察、栽培活動、読書、係活動】</p>			
児童と園児の交流	・なかよくならう集會	・おもちゃまつり	むかしのおそびまつり				
職員の連携	・幼保小連絡会	・幼保小連絡会	・幼保小連絡会	・新1年生の情報交換			
家庭連携	<ul style="list-style-type: none"> ・良い面や成長している姿を伝える(個別懇談) ・生活習慣、早寝早起き、顔ごはんについて話し合う(個別懇談、クラス茶話会等) 	<ul style="list-style-type: none"> ・保護者の期待や不安に寄り添う(クラス茶話会) ・集団の中での育ちを伝える(保育参観) 	<ul style="list-style-type: none"> ・学習参観(小学校) ・幼保小連絡会 ・教員保育体験 ・保育公開 				
環境構成・留意点	<ul style="list-style-type: none"> ・自分なりの目標を持って取り組み、力を発揮して活動することができるよう運動遊びに必要な道具を準備したり確保したりする。 ・相手の思いを聞いて受け入れながら遊ぶ姿を言葉に出して認め、自信を持ってかわかっていけるようにする。 ・秋の自然物を使い遊びに取り入れて楽しむよう様々な材料を用いる。 	<ul style="list-style-type: none"> ・遊び道具や素材など、自分で進んで遊び出せるように準備しておき、友だちと話し合っって自由に遊べるような環境構成をする。 ・活動の始まりと終わりや、生活の流れが意識できるように、事前にスケジュールを伝え、見通しを持って過ごせるような言葉かけをする。 	<ul style="list-style-type: none"> ・学習活動が理解しやすいように、具体物を使う。 ・モジュール学習を取り入れる。 ・新しい集団になるために、ゲームを通して友達の関わりを増やす。 ・生活の中でトラブルが生じたときに、自分の気持ちを伝えることができるように支援をする。(手帳、写真、シール、カード) ・視覚的な支援をする。 				

定着させたい力の観点は3園と小学校が共通ですが、各園の教育・保育方針や教育・保育目標、子どもの実態に合わせ、内容については各園が創意工夫して示しています。

また、毎年子どもの実態に合わせて改善を行い、各年齢の指導計画(長期・短期)へ具体的に近づけていくなど、各園におけるカリキュラム・マネジメントが充実・確立しています。

年長児の指導計画
(アプローチカリキュラム)へ

※P.22へ

小学校1年生で定着させたい力や、幼児期の学びを生かすポイント等を示しています。

1年生のスタートカリキュラムへ

※P.22へ

年長児の指導計画（アプローチカリキュラム）

平成30年度		5歳児 第Ⅲ期案（9月～10月）		認定こども園 鳥取第二幼稚園	
めざす子どもの姿 ～主体性のある子どもを育てるために～					
<小学校入学に向け、5歳児卒園時にめざす姿> ・生活に意通しをもって行動できる。 ・自分の生活の場を整える。 ・自分の思いを言葉で伝えたり、人の話を聞き、伝え合う。 ・互いの思いを知り、友達と折り合いをつけながら遊びを楽しむ。 ・共通の目的に向かって、協力して取り組む。					
期	目標	人権教育目標	食育目標	9月	10月
の	子ども	・種々な土の層がけの中で掘り込みを繰り返し、虫居る中で自己を表現したり、掘り立ての土を積み重ねたりしながら行動する。 ・自分の思いが相手に伝わるように言葉で伝えたり、人の話を聞き止めてじっくり態度を養う。 ・異種で活動的な遊びをする中でルールを身に付けたり、友達と協力しあったりして取組を養う。	・食べ物や健康に関心を持ち、作ることや食べることを楽しむ。 ・自分の身体に興味を持ち、身体をつくるための栄養に関心をもつ。	・夏休みが明け、少しずつ生活リズムを取り戻し、友だちと一緒に遊びに取り組むようになる。 ・運動会をやり遂げた達成感や喜びを感じながら、いろいろな運動遊びに積極的に取り組むようになる。 ・季節の移り変わりに気づき、木の実や木の葉を集めたり遊びに取り入れたいりするようになる。	・秋の自然に興味や関心を持ち、収穫した遊びに取り入れたいりするようになる。
ね	らい	●共通の目標に向かって協力して取り組む。 ●自分達で考え、話し合ったり協力したりして遊びを進めていく楽しさを味わう。		●友達と協力し合ったり、励まし合いながら、一つの目標に向かって意欲的に取り組む。	
内	容	・運動会に期待感をもたながら、友達と協力し、準備を進めていく。 ・友達とリズムや音、心をはわせながら、マーチングを仕上げている。		・友達と共通のイメージや目的をもち、話し合いながら遊びを進めていく。 ・秋の自然物を自分たちの遊びに取り入れている。	
週	1週	2週	3週	4週	5週
ね	らい	・生活のリズムを取り戻し、友達と一緒に遊びを進めていく。 ・友達と一緒に、遊びや身体のかす遊びを楽しむ。	・マーチングでは友達と音や動きを合わせる楽しさや心地よさを再確認し、楽しむようになる。	・運動会を経験した競技やリズムを再確認し、楽しむようになる。	・ボールつきや縄跳び、立ち幅跳びなどの運動遊びに興味があるようになり、自分で挑戦しようとする姿勢がもてるようになる。 ・日々の遊びや活動で、園々の持っている力が十分発揮されるように応じて一人一人に丁寧な対応を心がける。
活	動	○給食式に参加する ○マーチング練習をする。 ○オートマチックダンス ○リズムを奏する。 ○壁面制作をする。 ○OPレシーブの練習をする。 ○体育教室 ○園生会	○給食式を観る。 ○給食に慣れる。	○給食式を観る。 ○給食に慣れる。	○給食式を観る。 ○給食に慣れる。
食	育	・給食の献立をもとに、食料に言葉による栄養素に関心をもつ。	・給食の献立をもとに、食料に言葉による栄養素に関心をもつ。	・給食の献立をもとに、食料に言葉による栄養素に関心をもつ。	・給食の献立をもとに、食料に言葉による栄養素に関心をもつ。
保	育	・健康診断 ・音楽発表会の演目検討	・健康診断 ・音楽発表会の演目検討	・健康診断 ・音楽発表会の演目検討	・健康診断 ・音楽発表会の演目検討

接続カリキュラムで共通理解した内容を、期案でより具体的に示している例です。
特に担当が意識している点は、●で記載しています。
また、この期案をもとに、月案・週案等の指導計画にもつなげるようにしています。

幼児教育・
幼保小の接続編

1年生のスタートカリキュラム



第1週 平成30年4月9日～13日							第2週 平成30年4月16日～21日						
9	10	11	12	13	14	15	16	17	18	19	20	21	22
(月)	(火)	(水)	(木)	(金)	(土)	(日)	(月)	(火)	(水)	(木)	(金)	(土)	(日)
一年生になったことを喜び学校生活に必要な約束（よいこのきまり、静風五心など）を知り、安心して学校に通うことができる。							体験的な活動を通して、学級の友だちと仲良く関わろうとすることができる。						
朝 入学式 学区別児童会 発達測定 ハーナナ市との交流会 交通安全教室							朝 体験的な活動を通して、学級の友だちと仲良く関わろうとすることができる。						
1 ①朝の準備 ②朝読書・自由帳 ③朝の会 ・みんなのせいがい ・大きな声で歌を歌う。 ・結ぶ紐や靴の結び方を教える。							1 ①朝の準備 ②朝読書・自由帳 ③朝の会 ・みんなのせいがい ・大きな声で歌を歌う。 ・結ぶ紐や靴の結び方を教える。						
2 ①手洗いの仕方 ②手洗いの道具の使い方 ③かかこの使い方 ○発達測定 ○音楽・メッセージ ○ふるさと ○交通安全教室							2 ①手洗いの仕方 ②手洗いの道具の使い方 ③かかこの使い方 ○発達測定 ○音楽・メッセージ ○ふるさと ○交通安全教室						
3 ①給食準備 ・横並びに手をのびる。 ・準備時間の確保→時間を短くする。 ・食べ終わった皿や箸の適切な処理（給食を食べる→歯磨き→読書）							3 ①給食準備 ・横並びに手をのびる。 ・準備時間の確保→時間を短くする。 ・食べ終わった皿や箸の適切な処理（給食を食べる→歯磨き→読書）						
4 ①朝の準備 ②朝読書・自由帳 ③朝の会 ・みんなのせいがい ・大きな声で歌を歌う。 ・結ぶ紐や靴の結び方を教える。							4 ①朝の準備 ②朝読書・自由帳 ③朝の会 ・みんなのせいがい ・大きな声で歌を歌う。 ・結ぶ紐や靴の結び方を教える。						
5 ①朝の準備 ②朝読書・自由帳 ③朝の会 ・みんなのせいがい ・大きな声で歌を歌う。 ・結ぶ紐や靴の結び方を教える。							5 ①朝の準備 ②朝読書・自由帳 ③朝の会 ・みんなのせいがい ・大きな声で歌を歌う。 ・結ぶ紐や靴の結び方を教える。						
12:00 14:20 14:50 14:50 14:50							14:40 14:40 14:30 14:40 14:40 14:40						

教師の意識化を図るために、学習を以下のように色分けをしています。
桃色：幼児期の体験を生かした学習
黄色：学校の生活に関する学習
緑色：生活科を中心とした総合的・関連的な学習
水色：教科等を中心とした学習
 子どもの集中時間に合わせて、1単位時間を分割しながら、弾力的に運用しています。

幼児期に培った力が生かせたり、安心して人間関係が構築できたりするような援助や環境の構成を留意点として記載しています。

校区の重点項目を示し、編成した接続カリキュラム

鳥取市立浜村小学校と鳥取市立浜村保育園では、小学校教員の保育体験や園の保育者による小学校の授業体験、合同研修会等を通じ、互いの教育内容等を理解し合うことを大切にしています。校区のめざす子どもの姿を共通理解し、共通実践することを決めた上で、編成したカリキュラムを紹介します。

アプローチカリキュラム(全体計画)

※写真は、保育者の小学校授業体験の様子

平成30年度 浜村保育園アプローチカリキュラム		【保育目標】 自分が好き みんなが好き 共に育ちあう 笑顔いっぱい浜村保育園											
子どもの実態		・明るく人懐っこい。・様々なことに興味関心があり、意欲的に取り組もうとする。・興味が続かず、最後まで取り組めない姿もある。・自分の思いを言葉で表現することができない子どももいる。											
行事	目標	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月
		入園式 保育参観 敬老会参加 (祝高齢者/5) ちまきつくり (おひさま/4) さつまいも作り (ふれあひ/4)	子どもの目の黒い 個人懇談 じやがいも掘り グリーンカーテン (お/4)	子どもの目の黒い 個人懇談 じやがいも掘り グリーンカーテン (お/4)	敬老会参加 (祝高齢者/5) ちまきつくり (おひさま/4) さつまいも作り (ふれあひ/4)	敬老会参加 (祝高齢者/5) ちまきつくり (おひさま/4) さつまいも作り (ふれあひ/4)	敬老会参加 (祝高齢者/5) ちまきつくり (おひさま/4) さつまいも作り (ふれあひ/4)	敬老会参加 (祝高齢者/5) ちまきつくり (おひさま/4) さつまいも作り (ふれあひ/4)	敬老会参加 (祝高齢者/5) ちまきつくり (おひさま/4) さつまいも作り (ふれあひ/4)	敬老会参加 (祝高齢者/5) ちまきつくり (おひさま/4) さつまいも作り (ふれあひ/4)	敬老会参加 (祝高齢者/5) ちまきつくり (おひさま/4) さつまいも作り (ふれあひ/4)	敬老会参加 (祝高齢者/5) ちまきつくり (おひさま/4) さつまいも作り (ふれあひ/4)	敬老会参加 (祝高齢者/5) ちまきつくり (おひさま/4) さつまいも作り (ふれあひ/4)
育	園	アプローチカリキュラム(接続期) <目指す子どもの姿>人やもの、ことへの豊かな体験を通して ①相手の思いを思いやり自分の思いを言葉で伝えようとする。 ②心と体を働かせめづめずにより遊べることの充実感を味わう。											
活動内容	保小交流	人間関係 具体的な子どもの姿 健康な体 生活習慣 人間関係 情緒(心) 学びの基礎											

幼児教育・幼保小の接続編

校区で重点を置く「人間関係」をねらいとした活動には、保小共通して桃色で示しています。

浜村小・生活科を中心としたスタートカリキュラム全体像

浜村小・生活科を中心としたスタートカリキュラム全体像		【保育目標】 自分が好き みんなが好き 共に育ちあう 笑顔いっぱい浜村保育園											
浜村小・生活科を中心としたスタートカリキュラム全体像		・明るく人懐っこい。・様々なことに興味関心があり、意欲的に取り組もうとする。・興味が続かず、最後まで取り組めない姿もある。・自分の思いを言葉で表現することができない子どももいる。											
行事	目標	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月
		入学式 学校参観(毎月)学年だより(随時) 授業参観 ・スタートカリキュラム始動	生活科を中心としたスタートカリキュラム ・学年だより(毎月)学年だより(随時) 授業参観 ・スタートカリキュラム始動	生活科を中心としたスタートカリキュラム ・学年だより(毎月)学年だより(随時) 授業参観 ・スタートカリキュラム始動	生活科を中心としたスタートカリキュラム ・学年だより(毎月)学年だより(随時) 授業参観 ・スタートカリキュラム始動	生活科を中心としたスタートカリキュラム ・学年だより(毎月)学年だより(随時) 授業参観 ・スタートカリキュラム始動	生活科を中心としたスタートカリキュラム ・学年だより(毎月)学年だより(随時) 授業参観 ・スタートカリキュラム始動	生活科を中心としたスタートカリキュラム ・学年だより(毎月)学年だより(随時) 授業参観 ・スタートカリキュラム始動	生活科を中心としたスタートカリキュラム ・学年だより(毎月)学年だより(随時) 授業参観 ・スタートカリキュラム始動	生活科を中心としたスタートカリキュラム ・学年だより(毎月)学年だより(随時) 授業参観 ・スタートカリキュラム始動	生活科を中心としたスタートカリキュラム ・学年だより(毎月)学年だより(随時) 授業参観 ・スタートカリキュラム始動	生活科を中心としたスタートカリキュラム ・学年だより(毎月)学年だより(随時) 授業参観 ・スタートカリキュラム始動	生活科を中心としたスタートカリキュラム ・学年だより(毎月)学年だより(随時) 授業参観 ・スタートカリキュラム始動
活動内容	保小交流	スタートカリキュラム(週案) 生活科を中心としたスタートカリキュラム ・学年だより(毎月)学年だより(随時) 授業参観 ・スタートカリキュラム始動											

幼児期の学びを生かす支援を黄色で示し、教師の意識付けを図ります。

園及び小学校等の教職員が、お互いの教育内容や指導・援助の方法等を理解し、それぞれの教育課程・指導計画や指導方法を工夫・改善していくことが大切です。

保育者には、「幼児との信頼関係を十分に築き、幼児が身近な環境に主体的に関わり、環境との関わり方や意味に気付き、これらを取り込もうとして、試行錯誤したり、考えたりするようになる幼児期の教育における見方・考え方を生かし、幼児と共によりよい教育環境を創造するように努める」ことが求められています。その際、保育者は、子どもの主体的な活動が確保されるよう、教材を工夫し、物的・空間的環境を構成することや、教材研究を通して、子どもと教材との関わりについて理解を深め、遊びを展開し充実していくような豊かな教育環境の創造に努めることが必要です。

そのため、子ども一人一人の環境との関わり方や思いや願いを捉え、発達の理解に基づいた評価を実施することが求められています。多面的に子どもを捉え、その評価の妥当性や信頼性を高め、園全体で組織的かつ計画的に園内研修を行い、保育者の専門性を高め合うことが大切です。

ポイント①

様々な工夫により園内研修を充実・活性化する

保育者が、自らの専門性を高めるために学び続けたいと思うような主題をもって探究するとともに、園全体において、研修のための環境や研修の工夫を行うことによって、研修の充実を図っていくことが大切です。また、どの保育者も主体的に参加し、対話し、学ぶことができるような研修の場や時間の工夫を行うことで、園全体としての教育・保育の質の向上につながります。



「研修の重要性は理解しているが、全員そろっての研修の時間確保は難しい、補欠体制がとりにくい、臨時職員の研修参加が難しい」等の実態や課題が、どの市町村、園にでもあるのではないのでしょうか。

このような課題に対し、各園で工夫していることについて協議した内容を紹介します。



< H30東部地区幼稚園教諭・保育教諭・保育士等による合同研修会 H30.8.8 >

第3回合同研【情報交換・グループ協議】のまとめ～研修を充実させるための工夫～

<p>全職員の共通理解のための方法</p> <ul style="list-style-type: none"> 全職員、職種別研修の実施 ビデオ研修、公開保育を通して共通理解 非常勤職員に対しては、複数回に分けて実施 正職が職員会の内容を他の職員に伝える 同じテーマでも二部制（昼、夜の部）で行う 議事録の回覧 休憩室、職員室のホワイトボードに記入 市町保育リーダーによる園への出前研修（全園で同じ内容を共通理解） 時間外の研修も設定 人に伝わる記録の記載の工夫 <p></p> <p><八頭町保育専門員による出前研修></p>	<p>研修時間の確保</p> <ul style="list-style-type: none"> 45分間など研修時間を制限する あらかじめシユメ・書面等を渡し、個々で検討した上で研修会に参加 議題によって、時間の配分を明確にする 5分前行動厳守 子どもたちと一緒に実技研修の実施（勤務時間内に行える） 外部講師の時は、18時以降の研修 距離が近い他園とのグループ研修 一人の発言時間を決める（短く要約して話す力の育成にもなる）
<p>人材育成(若手・ミドルリーダー等)</p> <p>①若手育成として</p> <ul style="list-style-type: none"> エルダー制を取り入れる。 OBが若手に指導 中堅職員が若手職員の指導案について指導する 学年主任が新人とペアを組む 若手職員が司会進行 交換日記(新人ノート)の活用 <p>②ミドルリーダー育成として</p> <ul style="list-style-type: none"> 階層別研修（経験年数など） 副園長、主任を中心とした研修 県のミドルリーダー研修で学んだ事を伝達 チーム研究（チーム、ヤング、リーダーなど役割分担をする） 主任が若手職員の指導に当たる チームリーダー制の導入 	<p>職員研修の充実・活性化</p> <ul style="list-style-type: none"> 全員の意見が出るようにどんどん指名する 少人数・階層別の研修にすることで意見を出しやすくする 1年間の計画をたて、テーマをたてながら研修会を進める ゲーム等を取り入れて、コミュニケーションを図る 意見が出しやすい研修の手法（田の字法、KJ法等）の利用 事前に、研修内容について意見を考え、研修参加 職員が講師となり、研修をすすめる エピソード記録を用いているいろいろな見方、とらえ方ができるようにする 写真、ビデオ等を用いて、じっくりと視点をしぼって協議する <p></p>

ポイント②

ねらいを明確にした保育指導案を作成する

指導案を作成することにより、保育のねらいや内容、保育の流れが明確になり、かつ、ねらいに基づき、子どもの姿や保育者の援助、環境の構成等について振り返ることができます。ねらいを絞ることにより、保育を構想したり、実践を通して様々な子どもの育ちや学びを見取る力をつけたりすることにつながります。

幼児教育・
幼保小の接続編

保育指導案例

ねらいを明確にするために、視点を記載する場合もあります。

ねらいを明確にするために、視点を記載する場合もあります。

環境にどのように関わるか、どんな遊びをするのかを具体的に予想して書きます。

ねらいにせまるための援助や環境の構成を焦点化して書きます。

子どもの育ちと指導計画(長期・短期)とを照らし合わせ、意図的・計画的に構想を立てます。

ねらいにせまるための援助や環境の構成を焦点化して書きます。

月や週のねらいと照らし合わせ、子どもの内面に育てたいことを設定します。

どんな行動や言葉が見られれば、ねらいを達成していると言えるのか、具体的な子どもの姿を書きます。

【指導案作成時のチェックポイント】

- 園の教育・保育目標、めざす子ども像につながっている。
- 年間指導計画・月案につながっている。
- 【ねらい】と【評価】が繋がっている。
- 子どもが主体的に活動する、遊びをつくり出す展開となっている。
- 環境とのかかわり方や意味に気付き、これらを取り込もうとして、試行錯誤したり、考えたりするような活動となっている。
- 子どもと保育者、子ども同士が対話する場面を設定している。
- ねらいを達成するための環境構成・保育者の援助を示している。
→本時のねらいを短くキーワードで表すと()
- 次の活動への期待や意欲をもつことができるよう、子ども自身が遊びの見通しや振り返りができる場面がある。
- 保育者が複数の場合、各保育者の役割、援助や配慮等を話し合い、記載している。
- 支援の必要な子どもがいる場合、個別のねらいや支援・援助を示している。

各園が定めている様式に沿って、他の保育者と相談しながら保育を構想しましょう。



保育指導案は、子どもの育ちや学びと遊びのつながりを明確にし、保育のねらいや活動、保育者の援助等を考えるために有効です。しかし、計画通りに「させる」のではなく、子どもの実態に即して、柔軟に保育を展開することにも留意することが大切です。

職員同士が主体的に学び合う姿勢と環境が重要であり、日々の保育実践、園内研修等を通じて、協働性を高め、保育の質の向上をめざしていきましょう。

保育者一人一人の専門性の向上、園内全教職員の共通理解や協働性を高め、園全体としての保育の質の向上を図るため、各園で計画的に園内研修を実施しています。また、研究テーマや園や地域の特色を生かした様々な取組が行われています。

園の教育力・保育力向上のため、それぞれの市町村や園における工夫した研修及び実践例を紹介します。

実践事例 1

研修時間を設定しないで行ける 園内研修



- ① 参観者の中の代表者がねらいにせまる子どもの姿の写真を撮影
- ② 参観者は、保育のねらいに沿って、子どもの姿を付箋に記入しながら保育参観
- ③ 何枚かの写真をプリントアウトし、職員室の協議テーブルに置いておく。
- ④ 参観者は、記入した付箋を写真の横に貼っておく。
- ⑤ 担任は、写真と付箋を見て、記録や保育改善に生かす。

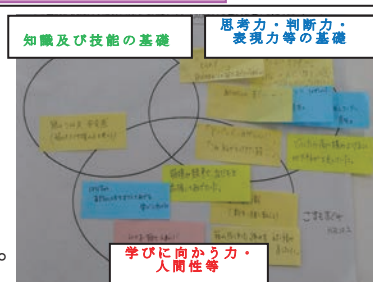
担任は、参観者の付箋から、自分では気付かなかった子どもの姿やつぶやきを知り、より多面的に子どもの姿を捉え、自分の保育を省察することができます。

研修時間を設定した園内研修

上記①②の後、参観した職員が集まり、研修を実施

③ 園内研修の進め方

- ・写真と付箋をもとに、ねらいにせまる子どもの姿について意見交換を行う。
- ・上記の子どもの姿は、「幼児期に育みたい資質・能力」のいずれにつながる姿なのか、付箋を活用して意見交換する。
- ・園において「育みたい資質・能力」を意識した遊びを展開するために、必要な環境構成や保育者の援助について考える。



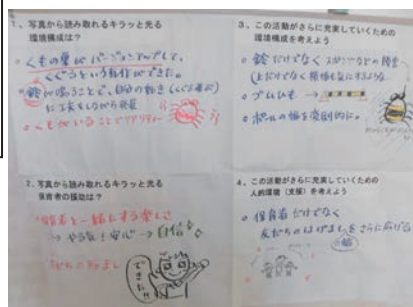
実践事例 2

研修テーマに沿った写真を活用した園内研修 (フォトラーニングの手法)

- ① 参観者が研修テーマに沿った視点で写真を撮影
- ② 参観者は、テーマに沿った子どもの姿や環境を見付け、付箋またはワークシートに記入
- ③ 園内研修の進め方
 - ・グループ（4～5人）を編成する。
 - ・プリントアウトした写真の中から、グループごとに協議したい保育場面の写真を選ぶ。
 - ・写真の中の子どもの姿（表情やしぐさ等）や環境の構成・保育者の援助から読み取れる良い点について協議する。
 - ・さらに、子どもの力を伸ばすために必要な環境と援助について協議する。

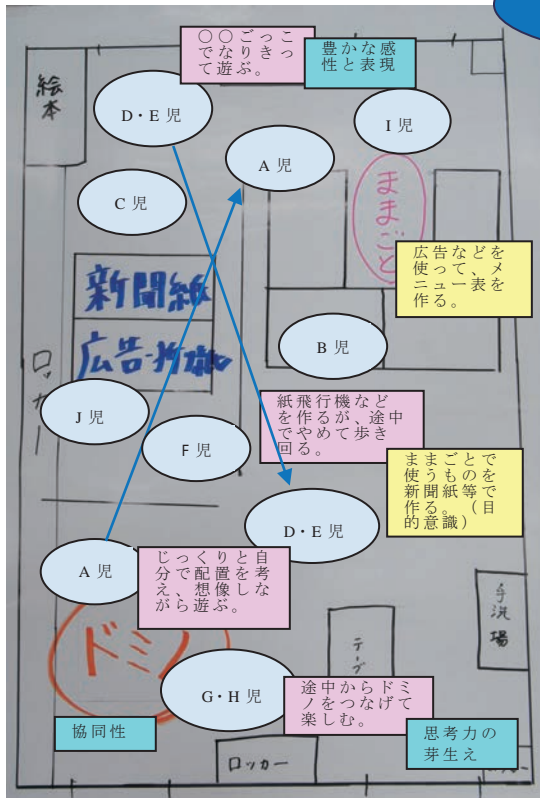


写真を活用することで、協議内容を焦点化し、全員発言による協働的な研修となります。また、複数の保育者で協議することで、評価の妥当性や信頼性が高まります。



実践事例 3

環境構成図を活用した 園内研修



<環境構成図
園内研修の内容を抜粋して作成>

- ① 参観者は、一人一人の子どもの遊びの様子、動きを環境構成図に書き込みながら参観
- ② 園内研修の進め方
 - ・それぞれの子どもの遊びの様子を伝えながら、子どもの動き等を図に書き込む。
(誰とどのように遊んでいたか、遊びの場をどのように選んでいたのか、どんな経験をしているのか等)
 - ・保育者は、どのような援助をしていたのか、どんな援助や環境構成が必要であるのか協議する。
 - ・遊びの中で見られた「幼児期の終わりまでに育ってほしい姿」について協議する。

桃色の付箋

黄色の付箋

水色の付箋

環境構成図を活用することで、子どもの動線を意識した環境を整えたり、子ども一人一人の遊びの様子や友達関係等の全体像を俯瞰することができ、視覚的に捉えやすくなります。
また、毎日の保育室内の環境を子どもの興味・関心等に合わせて、意図的に構成していくために有効です。



実践事例 4

園のめざす子ども像を カリキュラムに生かす園内研修

園内研修の進め方

- ・園の子どもの実態について意見交換する。
(良い面・伸びてきている面、気になる面・課題等)
- ・子どもの実態をふまえ、園のめざす子ども像を具体的に捉え直し、付箋に書く。
(各々の子ども像ごとに付箋の色を変える。)
- ・上記の子どもの姿(付箋)を「育みたい資質・能力」に分類する。<※右の写真>
- ・「園において育みたい資質・能力」(重点目標)について協議する。
- ・上記の重点目標を全職員で共通理解し、園の「全体的な計画」「教育課程」等に位置付ける。
- ・各年齢の教育目標と「園において育みたい資質・能力(重点目標)」とが繋がっているか、各年齢の教育目標は、系統的になっているのか意見交換し、カリキュラムの改善を行う。



※<園のめざす子ども像を「育みたい資質・能力」に分類した模造紙>



園におけるめざす子ども像を目の前の子どもたちの姿と照らし合わせて考えることで、卒園までに育てたい子どもの姿を明確にすることができます。
また、本研修で全職員が参画し、協議したことを、全体的な計画や各年齢の指導計画等の作成・改善に生かすことは、全職員の協力体制の下、組織的かつ計画的にカリキュラム・マネジメントを実施し、園における教育活動の質の向上を図ることにつながります。

鳥取市においては、公私立・施設種（保育所・認定こども園・小規模事業所等）の区別なく、各種研修会を実施しています。研修を通じて、互いの保育を参観したり様々なテーマに沿って、情報交換・意見交換をしたりしています。市全体で保育目標を共有し、共通理解を深め、保育の専門性を高めていくことにつながっています。

<ほいくかがやき実践研修会>

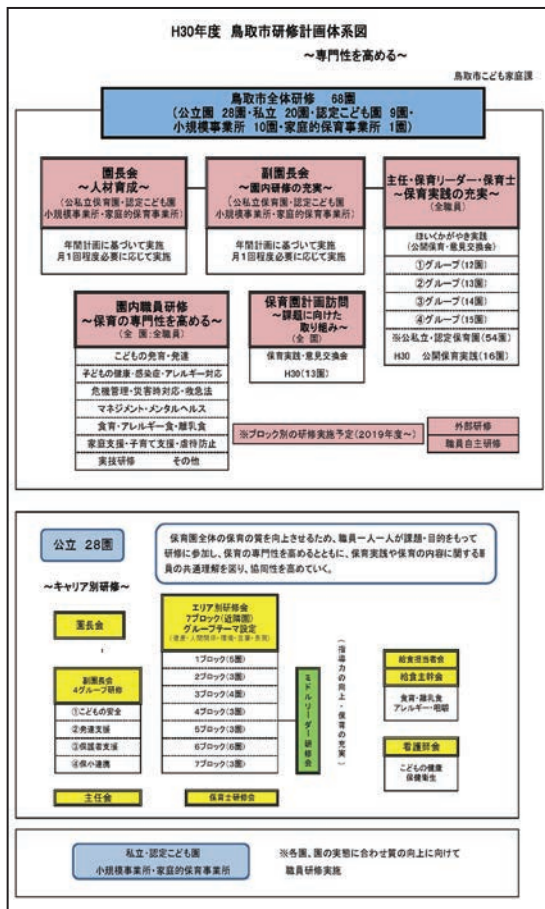


対象を各園の主任・主幹保育士とし、公私立関係なく、公開保育をもとに協議します。また、鳥取大学の教授陣や鳥取市子ども家庭課及び県幼児教育センターのスタッフと共に学びを深めます。



<エリア別研修会>

公立保育園全職員を対象とし、近隣の園でグループを組み、研修を自主運営しています。グループ名を考えたり、即保育に生かせる実技的な内容等を組み入れたりして、グループのニーズに応じた研修を行っています。



幼児教育
・
幼児小の接続編

11月 (12日～17日)		記録日誌	きりん組	自己評価	特記事項
11/12 (月)	*自分の体を俊敏に動かしながら、伸び伸びと遊ぶ。(健康) *靴取りをする。	10の姿「思考力の芽生え」 靴取りを遊びながら、鬼は靴を揃え込まない事、鬼が変わったら「○○やん」と変わったと伝え合う事等を子ども同士で決めながら、自分達でルールの確認をしながら遊びを進めていた。	子どもが積極的に参加して楽しんでいる様子が見られる。	子どもも意欲的に取り組んでいた。	
11/13 (火)	*人の話を注意して聞き、皆に分かるように話す。(言葉) *発表の言葉を覚え、言おうとする。	クラス全体の姿 発表を聞きながら、皆に分かるように話す。発表の言葉を覚えて、言おうとする意欲を感じられた。	発表を聞きながら、皆に分かるように話す。発表の言葉を覚えて、言おうとする意欲を感じられた。	発表の言葉を覚えて、言おうとする意欲を感じられた。	
11/14 (木)	*低年齢児との関わりを深め、思いやりや愛情を持って活動する楽しさを感じる。(人間関係) *ゲームをする。	新聞紙の上に松ぼっくりを乗せ、漕がリレーを異年齢児の友達と一緒に楽しむ。ルールを理解できていない年下の友達に「こっただよ」と優しく教えてくれたり、相手のペースに合わせて遊んでくれる姿が見られた。	保育者があまり介入しすぎないようにし、子ども達自身が自分で考えながら自然に交流ができるように見守った。相手の気持ちを考えながら関わったり、相手のペースに合わせて遊んでくれる姿が見られた。	保育者があまり介入しすぎないようにし、子ども達自身が自分で考えながら自然に交流ができるように見守った。相手の気持ちを考えながら関わったり、相手のペースに合わせて遊んでくれる姿が見られた。	
11/15 (土)	*セリフの書いてある紙を見ながら、自分のセリフや友達のセリフなどに関心を示す。(環境)	すでに覚えている子どもを中心に、文字に関心を持っている子どもを中心に、書いてある文字を読み、「ここは○○」	文字への関心は個人差があるものの、知っている文字を拾い読みしたり、最後まで読んでくれる姿が見られたので、関心を持って読む姿が見られた。	文字への関心は個人差があるものの、知っている文字を拾い読みしたり、最後まで読んでくれる姿が見られたので、関心を持って読む姿が見られた。	

<5歳児の例>
どの年齢も「幼児期の終わりまでに育ってほしい姿」を記録しています。

一人一人の姿

玄関掲示

八頭町の園では、日誌に「幼児期の終わりまでに育ってほしい姿」について記載しています。今日の保育の中で見られた子どもの姿をクラス全体の様子で捉えたり、一人一人の子どもの姿で記載したりして記録を蓄積することにより、保育要録の補助資料となります。また、保護者に対しても園の保育目標やめざす子ども像とともに「幼児期の終わりまでに育ってほしい姿」について説明し、園における子どもの学びや育ちについて玄関掲示で紹介しています。

